

|| 企業調査レポート ||

大幸薬品

4574 東証1部

[企業情報はこちら >>>](#)

2019年9月27日(金)

執筆：客員アナリスト

角田秀夫

FISCO Ltd. Analyst **Hideo Kakuta**



FISCO Ltd.

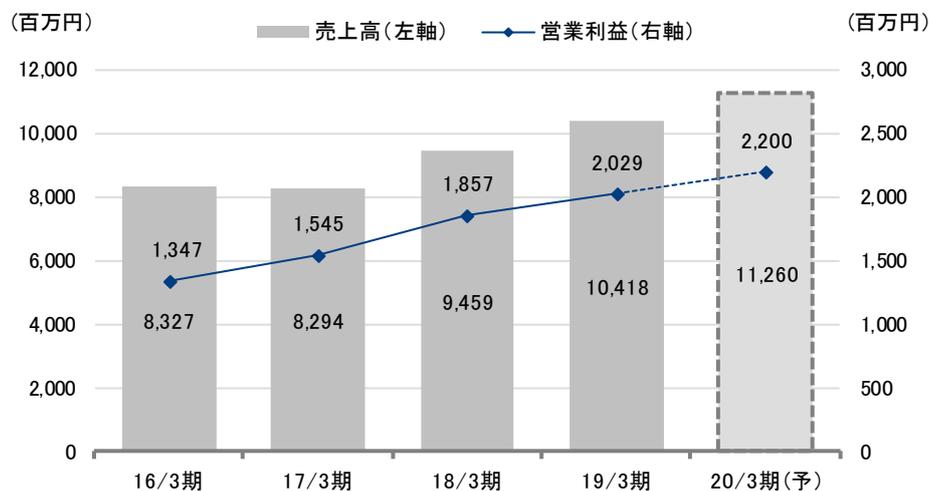
<http://www.fisco.co.jp>

業績動向

2020年3月期第1四半期は医薬品事業、感染管理事業共に順調な滑り出し

大幸薬品<4574>は、「正露丸」「セイロガン糖衣A」を中心とする医薬品事業と、ウイルス除去・除菌・消臭製品「クレベリン」シリーズを中心とした感染管理事業を展開している。

通期業績の推移



出所：決算短信よりフィスコ作成

2020年3月期第1四半期は、売上高が1,416百万円(前期比11.9%増)、営業利益が180百万円(同193.0%増)、経常利益が127百万円(同347.2%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益が103百万円(同165.8%増)と増収増益で滑り出した。

売上高に関しては、医薬品事業が堅調に業績を伸ばし、感染管理事業もオフシーズンではあるが前年同期を上回った。国内医薬品事業の売上高は1,030百万円(前期比10.4%増)。主力の正露丸、セイロガン糖衣Aともに堅調に推移している。海外医薬品事業の売上高は208百万円(同25.8%増)。香港向けが増加し、全体としておおむね計画どおりの進捗である。感染管理事業の売上高は、174百万円(同8.4%増)。2018年にクレベリン製品のデザインリニューアル、店頭強化、新TVCMなど一貫したマーケティング施策で成功を収め、その勢いが継続している。一般用製品の好調に連動して業務用製品も順調である。

売上総利益は増収影響により増加。販管費は、医薬品事業で広告宣伝強化(TVCM放映等)の影響で金額ベースでは増えたが、増収効果等により販管費率は低下した。結果として、営業利益は前年同期比で大幅な増益となった。セグメント利益では医薬品事業が前年同期並み、感染管理事業が大幅に収益を改善した。

業績動向

2020年3月期第1四半期連結サマリー

(単位：百万円)

	19/3期1Q		20/3期1Q		前年同期比	変化要因
	金額	売上比	金額	売上比		
売上高	1,265	100.0%	1,416	100.0%	11.9%	
内) 国内医薬品事業	933	-	1,030	-	10.4%	国内医薬品事業は、主力の正露丸、セイロガン糖衣Aが堅調 海外医薬品事業は、香港向けが前年同期を上回る。おおむね計画どおりの進捗 感染管理事業は、一般用、業務用ともに前年同期を上回り好調。前期からのマーケティング戦略が奏功しブランド力向上
内) 海外医薬品事業	165	-	208	-	25.8%	
内) 感染管理事業	160	-	174	-	8.4%	
売上総利益	873	69.0%	1,024	72.3%	17.4%	増収影響等により総利益額増加
販管費	811	64.1%	843	59.6%	4.0%	広告宣伝費増加。増収効果等により販管費率は低下。
営業利益	61	4.9%	180	12.8%	193.0%	国内医薬品事業、感染管理事業の増収影響などにより販管費増を吸収
経常利益	28	2.3%	127	9.0%	347.2%	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	38	3.1%	103	7.3%	165.8%	

出所：決算短信、決算説明会資料よりフィスコ作成

■ 今後の見通し

2020年3月期通期は、3期連続増収増益を予想

2020年3月期通期の業績予想は、売上高で前期比8.1%増の11,260百万円、営業利益で同8.4%増の2,200百万円、経常利益で同3.4%増の1,950百万円、親会社株主に帰属する当期純利益で同0.3%増の1,420百万円と堅調な増収増益を予想する。

医薬品事業の売上高は前期から安定成長を予想する(前期比2.7%増)。国内医薬品事業では、マーケティング施策を強化し、正露丸商品群全体としての新しいメッセージ「全下痢対応」の更なる浸透を図っている。他社品のうち正常な腸の動きを止める製品は「ウイルス・菌」による下痢の場合に、腸にウイルス・菌が溜まってしまいう可能性があるのに対し、同社の正露丸は正常な腸の動きを止めないため、「ウイルス・菌」による下痢でも服用できることをアピールしている。海外医薬品事業は、2020年3月期も中国・台湾を中心に成長を予想する。

今後の見通し

感染管理事業は、例年並みの季節性インフルエンザの流行を前提にしつつも、感染管理市場の継続的な成長を背景として既存製品の販売増加及び新製品の販売開始の効果を加味し2ケタ成長を見込む（前期比14.4%増）。クレベ&アンドのブランドでの日常除菌製品分野の展開も開始され、通年需要が期待できる。2019年7月には中国江蘇総芸グループ（南通総芸社）と衛生管理製品の事業展開のパートナー契約も締結し、感染管理事業の中国市場での本格展開が始まる。クレベ&アンド及び中国市場展開についての期待は大きく、その動向によっては業績が上振れる可能性がある。

2020年3月期もブランド強化などのマーケティング施策等のために販管費を588百万円増やすが、増収効果及び返品の減少による売上総利益率向上で吸収し増益を見込む。第1四半期の進捗は売上高、各利益ともに順調だ。

トピックス

日常除菌の新ブランド「クレベ&アンド」製品を新発売

1. 日常除菌の新ブランド「クレベ&アンド」製品

同社は、二酸化塩素製品「クレベリン」から派生させた日常除菌製品の新ブランド「クレベ&アンド（クレベアンド）」を立ち上げ、第一弾としてハンドジェル、ハンドスプレー、キッチン用スプレーを2019年9月に発売した。クレベ&アンドというブランド名には1)クレベリンの姉妹ブランドであること、2)除菌による安堵（アンド）、3)クレベリン（二酸化塩素製品）と一緒に使ってほしい、という意味が込められている。空間のみならず、手指やキッチンなどの除菌を行う総合的な除菌製品をラインナップすることで、ワンストップショッピングによる消費者の利便性向上を目指す。同社にとっては、季節性の高いクレベリン製品に、通年で需要のあるクレベ&アンドで平準化を図りたい考えだ。小売店向けには、既にクレベリン及びクレベ&アンド統一での専用棚が多数採用されており、出荷も順調に推移している。今後、広告宣伝にも力を入れる予定であり、新ブランドが消費者に受容されるかが今後のカギとなる。

新ブランド「クレベ&アンド」製品

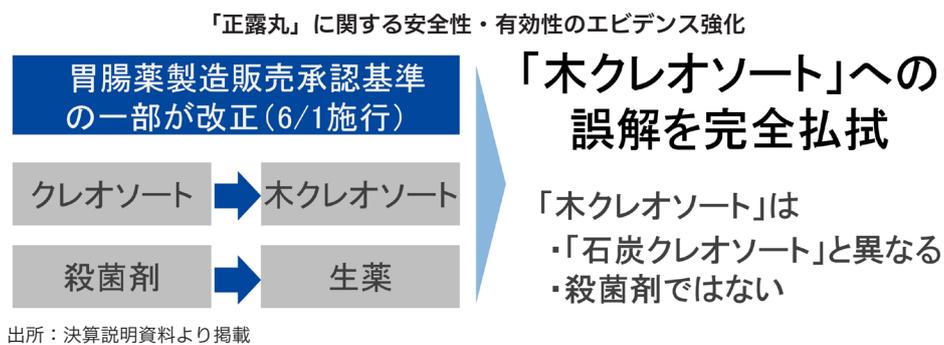


注：製品は左からハンドジェル、ハンドスプレー、キッチン用スプレー
 出所：決算説明資料、プレスリリースより掲載

トピックス

2. ロングセラーブランド「正露丸」を維持・成長させる研究開発の取り組み

同社の正露丸は100年以上続くロングセラーブランドである。老舗ブランドとはいえ、マーケティングや製品の改善は絶えず時代に合わせて行われてきた。2019年7月には、正露丸復刻版パッケージを数量限定で発売し「Gサミット（グリサミット）」緊急開催と題し、下痢に悩んだとされる歴史上の偉人のロゴ入りTシャツやバッグが当たるキャンペーンを行っている（2019年7月1日～9月30日）。製品に関しては、同社は安全性・有効性、腸内でのメカニズムなどのエビデンスを強化してきた。「正露丸」の主成分「木（もく）クレオソート」は服用後、直ちに胃から血中に吸収され、大腸の過剰な運動を正常化し、腸管での水分吸収を調整することで止瀉作用を発揮していること、通常使用量では腸内細菌叢に影響を与えないこと等が臨床的にも明らかになっている。その結果は胃腸薬製造販売承認基準（2019年6月一部改正施行）にも反映されている。主成分であるクレオソートは「石炭クレオソート」との誤解を防止するために「木クレオソート」へ、「殺菌剤」は「生薬」とそれぞれ成分の表記が改正された。



株主還元

自己株式の取得が進捗中

2020年3月期の配当予想は上期10円、下期20円、合計30円

1. 自己株式の買付状況

同社は2019年5月14日、自己株式の取得を発表した。理由としては、1) 資本効率の向上を通じて、株主還元強化、2) 資本政策の遂行を機動的に実施するため、430,000株（発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合3.0%）及び820百万円を上限に市場買付を行う。取得期間は2019年5月15日～2019年10月31日。8月31日までの累積では、256,100株（538百万円）が取得され、上限値に対する進捗率は株数ベースで59.6%、金額ベースで65.7%となり、順調に推移している。

株主還元

同社は近年増配及び配当性向の向上を行っており、自己株式の取得を追加することで、さらに株主還元が強化されることになる。

自己株式取得計画と進捗

理由	<ul style="list-style-type: none"> ・資本効率の向上を通じて、株主還元の強化 ・資本政策の遂行を機動的に実施するため
取得株式の種類	普通株式
取得株式数	430,000株(上限) 発行済株式数(自己株式を除く)に対する割合3.0%
取得金額	820百万円(上限)
取得期間	2019年5月15日～2019年10月31日
取得方法	東京証券取引所における市場買付 (証券会社による投資一任方式)
8月31日までの累積	256,100株(538百万円)
進捗率	59.6%(65.7%)

出所：決算説明会資料よりフィスコ作成

2. 配当

同社は、堅実な成長性を維持する事業展開と安定的な経営体力維持のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を維持していくことを基本方針とし、連結業績も反映した配当政策としている。2019年3月期の配当金は、年35円(中間10円、期末25円)(普通配当25円、特別配当10円)、配当性向は35.4%と、3期連続の増配となった。2020年3月期の配当金は年30円(上期10円、下期20円、普通配当30円)、配当性向は30.3%を予想する。

これまで期末のみ(年1回)であった配当を、2019年3月期から年2回とした。同社の業績は感染管理事業の季節変動のため下期偏重となるが、上期においても株主還元をしっかりと充実させた。クレバ&アンドの新製品群は通年製品であり、今後は業績の季節変動も弱まる予想。2020年3月期からは普通配当を25円から30円に増加。これまでどおり感染管理事業が大きく伸びて着地した場合には特別配当も期待できる。

免責事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けて作成されていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-11-9

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（情報配信部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp